

平成二十九年入学選抜学力検査問題

九時—十時三十分

地域デザイン科学部志願者

コミュニケーションデザイン学科を志願し、国語を  
選択した者

教育学部志願者

学校教育教員養成課程(学校教育・特別支援  
教育系、教科文系)を志願し、国語を選択し  
た者

農学部志願者

農業経済学科を志願し、国語を選択した者

国語(国語総合)

(本文 12ページ)

〔注意〕

1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この冊子には、三問題ある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は、申し出る。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。所定の欄以外に記入したものは無効である。

## 第1問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は，著作権の都合上，公開できません。)

（今井むつみ『学びとは何か——〈探究人〉になるために』。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。）

（この部分は，著作権の都合上，公開できません。）

問1 傍線部①～④のカタカナは漢字で、漢字はその読みをひらがなで、それぞれ記せ。

問2 傍線部⑤「一挙手一投足」の読みをひらがなで記し、語義を記せ。

問3 傍線部⑦「行間を補うために使う常識的な知識」とあるが、「お葬式」の例であればそれは何に当たるか。本文中の言葉を使って答えよ。

問4 傍線部①「海外の前衛的な映画を見ると、ストーリーを追えなくなってしまふことが時々ある」とあるが、それはなぜか。本文中の言葉を使ってわかりやすく説明せよ。

問5 傍線部②「学習ができない、という事態に陥ってしまう」とあるが、それはなぜか。「スキーマ」という語を使って簡潔に説明せよ。

問6 傍線部③「記憶は、主観的につくりだされるものである」とは、どういうことか。わかりやすく説明せよ。

問7 傍線部④「スキーマによって、実際には見なかったものを見たと思ってしまうたり、記憶がゆがめられて、実際のものとは違った形で思い出してしまったりすることも頻繁に起こる」とあるが、それはなぜか。「大学の先生の研究室への訪問」を例にして、具体的に説明せよ。

## 第2問

次の文章は、『月島物語』（一九九二年刊）と題するエッセイ集の巻末に近い一節である。読んで、後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)



(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(四方田犬彦よむたいぬびこ『月島物語』による)

注1 月島は東京湾の埋立地。一八九二年、月島一号地(現在の東京都中央区月島一丁目と月島四丁目)が完成し、富国強兵政策によって重工業地帯として発展した。

注2 国立くにたちは東京都多摩地域の市町村。一九二七年、一橋大学を中心とする学園都市構想に基づき、国分寺駅と立川駅の間に国立駅くにたちが開設された。

注3 佃島つくだしまの住吉神社は東京都中央区佃にある神社。住吉三神・神功皇后・徳川家康を祭神とする。

注4 永井荷風は一八七九年生、一九五九年没。日本の小説家。ゾライズムを提唱。欧米留学から帰国後は、江戸の都市文化を尊ぶ耽美たんび享楽の作風に転じた。

注5 ブレヒトはベルトルト・ブレヒト(一八五八年生、一九五六年没)。ドイツの劇作家、詩人、演出家。代表作に『三文オペラ』『ガリレイの生涯』など。第二次世界大戦中はナチスを逃れて亡命生活を送り、戦後は東ドイツに戻って劇団を設立し、世界の演劇界に大きな影響力を持った。

注6 ポンペイはイタリア・ナポリ近郊にあった古代都市。西暦七九年のヴェスヴィオ火山の噴火によって全滅した。

問1 傍線部①と⑤のカタカナを漢字で記せ。

問2 傍線部⑦「働いていた」とあるが、何が何に「働いていた」のか、わかりやすく説明せよ。

問3 傍線部①「皮肉な歴史の悪戯いたずらである」とあるが、なぜ「皮肉」なのか、わかりやすく説明せよ。

問4 空欄 I と II に適する語句を、次のA～Eから選択し、解答欄にアルファベットを記せ。

- A 高踏 B 鳥瞰ちようかん C 低徊ていかい D 韜晦たうかい E 傍観

問5 傍線部②「ある種の空間的磁場」とはどのようなものか。わかりやすく説明せよ。

問6 傍線部③「ひとつとして同じ路地がないように、一人として同じ観察者はいない。」とあるが、この一文には筆者の月島の路地の住人に対するどのような考えが現れているか。筆者が批判的に捉えていることと比較しつつ、わかりやすく説明せよ。

問7 傍線部④「わたしは路地の視点から日本近代と呼ばれるもののひとつの側面を描いてみたいと考えてきた」とあり、さらに傍線部⑤「路地の視座を保つ批評家でありたいと願うばかりである」とあるが、筆者がめざす「路地の視点」「路地の視座」とはどのような見方だと考えられるか。本文中の表現を用いて、わかりやすく説明せよ。

第3問 次の文章は、『俊頼髓脳』の中の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

朝倉や木のまる殿に我居れば名のりをしつつ行くは誰が子ぞ

この歌は、むかし、天智天皇、太子にておはしましける時、筑前の国に朝倉といへる所に、忍びて住み給ひけり。その屋を、

ことさらよろづの物をまるに作りておはしけるにより、木のまる殿とはいひそめたりけるなり。世につつみ給へることありて、都にはえおはせで、さるはるかなる所におはしけるなり。さて、つつみ給へるが故に、入りくる人に、「必ず、問はぬさき

に、名のりをして出で入れ」と、起請を仰せられたりければ、必ず出でいる人の名のりをしたるとぞ、申し伝へたる。この歌を本体にして、木のまる殿に名のりをしてよむなり。

大齋院と申しける齋院の御時に、藏人惟規、女房に物申さむとて、忍びて、夜、参りたりけるに、侍ども、みつけてあやしがりて、「いかなる人ぞ」と、問ひたづねければ、隠れそめて、え誰ともいはざりければ、御門をさしてとどめたりけるに、かたらひける女房、院に、「かかることなむはべる」と、申しければ、「あれは歌よむ者とこそ聞け」とく、ゆるしやれ」と、仰せられければ、ゆるされてまかりいづとて、よめる歌、

神垣は木のまる殿にあらねども名のりをせねば人とがめけり

とよめる。齋院聞こしめしてあはれがらせ給ひて、「この、木のまる殿といへることは、我こそ聞きしことなれ」とて、仰せられることを、女房うけたまはりてこの惟規に語りければ、「このこと、詠みながらくはしくも知らざりつることなり」とて、「このことのわびしかりつれば、このことをよく承らむとて、ありけることなりけり」とて、よろこびけるとぞ、盛房語りし。その惟規が先祖にて、よく聞き伝へたとぞ。

注1 天智天皇Ⅱ第三十八代天皇。(在位六六八〜六七一年)

注2 筑前の国Ⅱ旧国名の一つ。現在の福岡県北部・西部に相当する。

注3 まろⅡ「まる」の古形。丸い形のこと。

注4 起請Ⅱあることを発起し、それが現在未来にわたって長く順守されることを願うこと。

注5 大齋院Ⅱ選子内親王(九六四〜一〇三五年)のこと。五十七年間、賀茂の齋院を務めたため、大齋院と呼ばれた。

注6 藏人惟規Ⅱ藤原惟規。寛弘四年(一〇〇七年)に藏人に任ぜられた。

注7 神垣Ⅱここでは、賀茂の齋院御所のことを指す。

注8 盛房Ⅱ藤原盛房。歌人で俊頼と親交があった。

問1 傍線部㉞「いひそめたりけるなり」を現代語訳せよ。

問2 傍線部㉟「起請を仰せられたりければ」とあるが、天智天皇はどのような理由で、どのようなことを起請したのか、説明せよ。

問3 傍線部㊱「え誰ともいはざりければ」について、「え」「いは」「ざり」「けれ」の品詞名を答え、それが活用する品詞であれば活用形もそれぞれ答えよ。

問4 傍線部㊲「とく、ゆるしやれ」とあるが、齋院はなぜ惟規を許したのか、答えよ。

問5 傍線部㊳「まかりいづ」について、この語の意味と、動作主を答えよ。

問 6 傍線部㉔「あはれがらせ給ひて」とあるが、齋院はなぜこのように感動したのか、説明せよ。

問 7 傍線部㉕「このこと」とはどのようなことか、説明せよ。

問 8 この文章から、齋院はどのような人物であるとわかるか、述べよ。